

テレコム/ブロードバンド事業者向けソフトウェア企業 米国CSG Systems International, Inc.を買収

2025年 10月 29日

日本電気株式会社

エグゼクティブ・サマリ

- 米国のテレコム/ブロードバンド(BB)事業者向け事業において強固な顧客基盤を有し、かつ幅広い業界にソフトウェア・サービスを提供する
CSG Systems International, Inc. (CSG)を買収
- CSGとNECの米国子会社Netcrackerの補完的な顧客基盤とソリューションを活かしシナジーを創出
 - 両社は地理的・顧客セグメント的に相互補完性が非常に高く、テレコム/BB向けの事業基盤を更に強固なものとすることで、テレコム/BBの顧客に最適なソリューションを提供
 - 両社の技術やDXの能力を活かしたソリューション強化、商材のクロスセル、幅広い業種への事業展開など、豊富なシナジーの機会を想定
- NECグループの技術・顧客基盤・資金をフル活用し、欧州中心のDGDF事業と並び、北米からNECのグローバルでのソフトウェア・サービス事業の拡大を牽引
- 財務観点では、CSGの安定した利益を取り込み、NECのNon-GAAP 1株当たり当期利益はシナジー抜きでも7.7%増大化見込み。シナジー発現により更なるアップサイドを目指す

案件概要

対象会社	CSG Systems International, Inc.
買収金額	•買収対価：80.7米ドル／株（買収総額約29億米ドル／約4,417億円※1,2) •想定企業価値約29億米ドル／約4,385億円※1 •プレミアム：前営業日（2025年10月28日）株価68.75米ドルに対し17.38% •想定EV／2026調整後EBITDA※3：10.3倍
NECによる資金調達	手元現預金及び新規借入を充当
ストラクチャー	合併目的会社を通じた逆三角合併による完全子会社化
主要な前提条件	•CSGの株主総会での承認の取得 •各種許認可承認の取得
クロージング時期見通し	2026年中

※1 USD/JPY=153。 ※2 取得価額には、合併契約に定められるすべての発行済み株式報酬や社債が含まれます。取得価額は、株式数の変動等により変動する可能性があります。 ※3 アナリストコンセンサスに基づく。

CSG Systems International, Inc.概要

テレコム/BB向けにBSSソフトウェアを提供するリーディング企業 安定的な収益を確保



会社名 CSG Systems International, Inc.

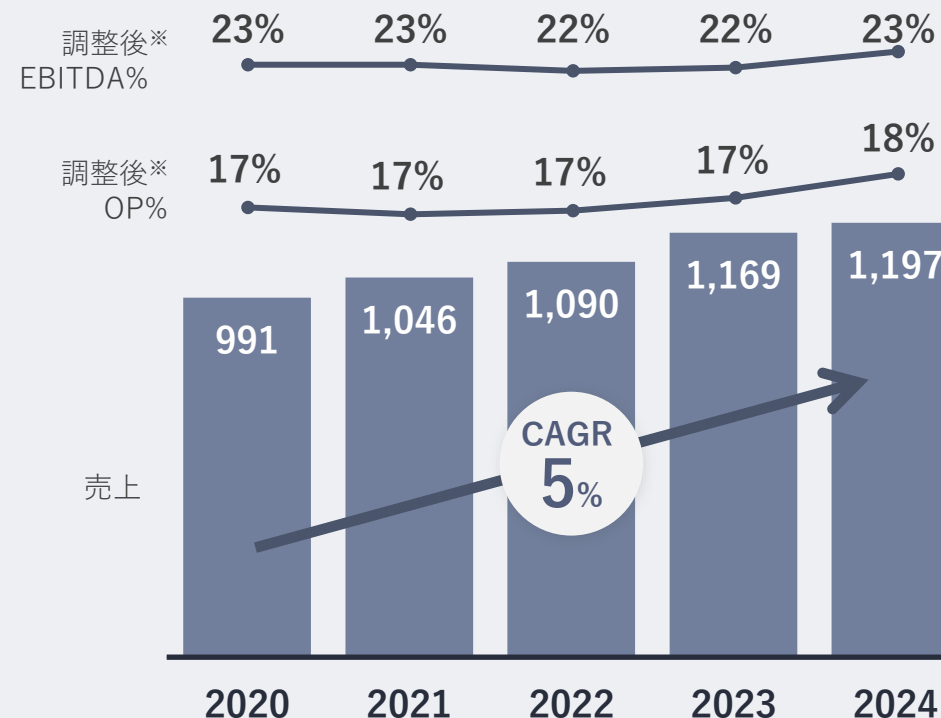
設立 1994年

事業内容

- ・テレコム/BB向けを中心としたBSSソフトウェア事業
- ・幅広い業種に適用可能なカスタマーエクスペリエンス(CX)およびペイメント関連のソフトウェア事業

業績推移

[USD m]



※Non-GAAPに加え、売上からTransaction Feeを除外

CSGの強み

長年のテレコム/BBへのBSS提供を通じて培った強固な顧客基盤と知見を武器に、DXケーパビリティの強化と幅広い業種への進出を実現

テレコム/BB

米国での強固な顧客基盤と知見

米国の大手テレコム/BBを複数顧客に持ち、強固な事業基盤を形成

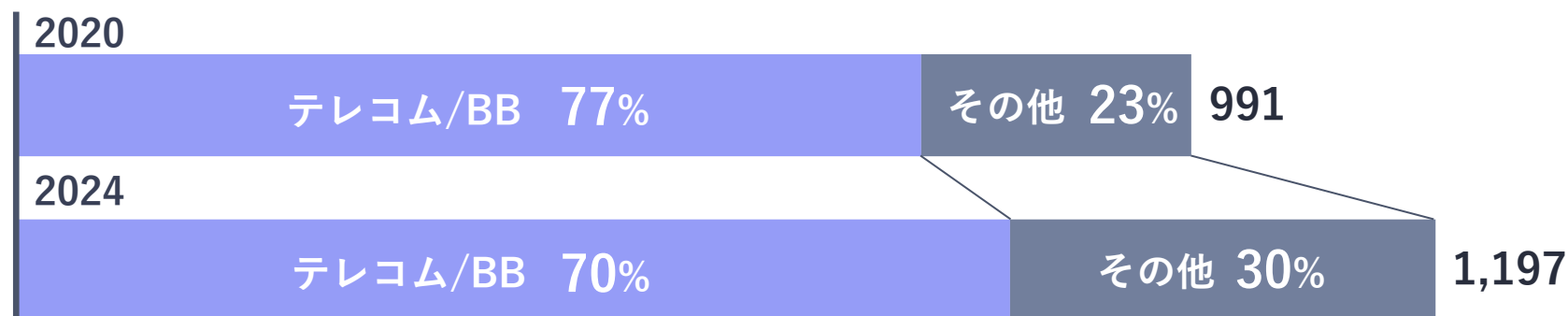
幅広い業種

金融、ヘルスケア、物流/交通等

CXや ペイメントソフトウェアを展開

幅広い業種に向けたDXのケーパビリティを強化
成長性の高い業種への展開が成長ドライバーに

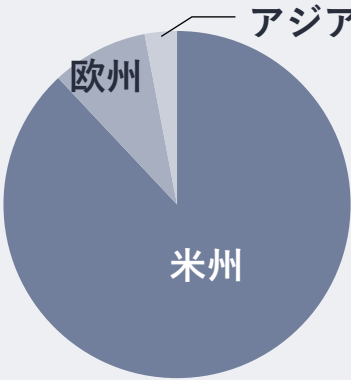
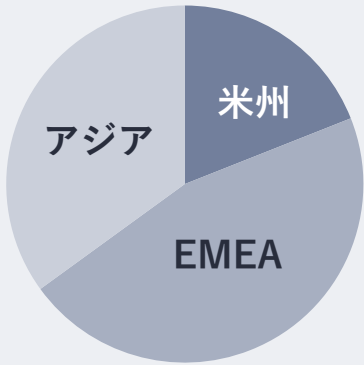
顧客別
売上比率
[USD m]



買収の意義

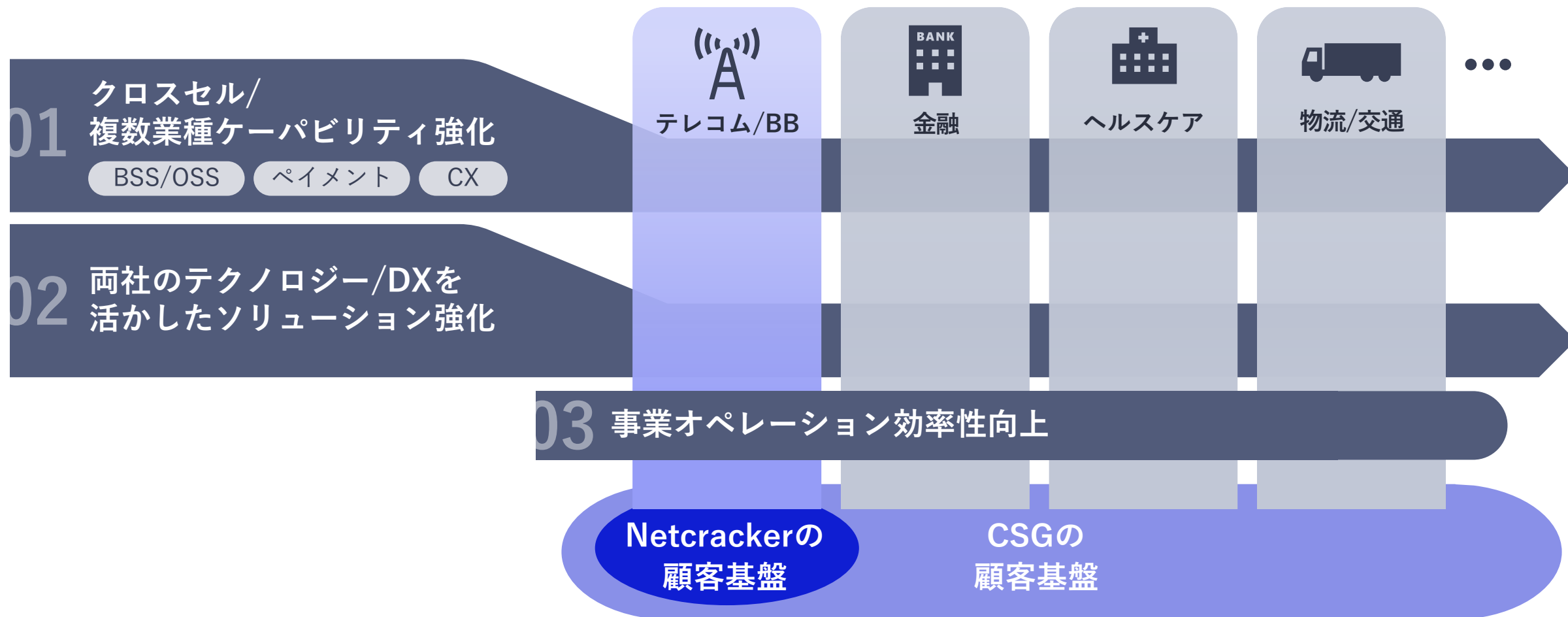
テレコム/BB向けソフトウェア・サービス市場における事業基盤強化
CSGとNetcrackerの幅広い顧客基盤を活用した事業拡大

両社のケーパビリティは相互補完性が非常に高く、大きなシナジーが期待

	CSG	Netcracker An NEC Company
本社	コロラド州イングルウッド	マサチューセッツ州ウォルサム
主要顧客基盤 地域別売上高	米国中心 テレコム/BB、 金融、ヘルスケア等 	グローバル テレコム 
ソリューション	BSS、CX、ペイメント	BSS/OSS

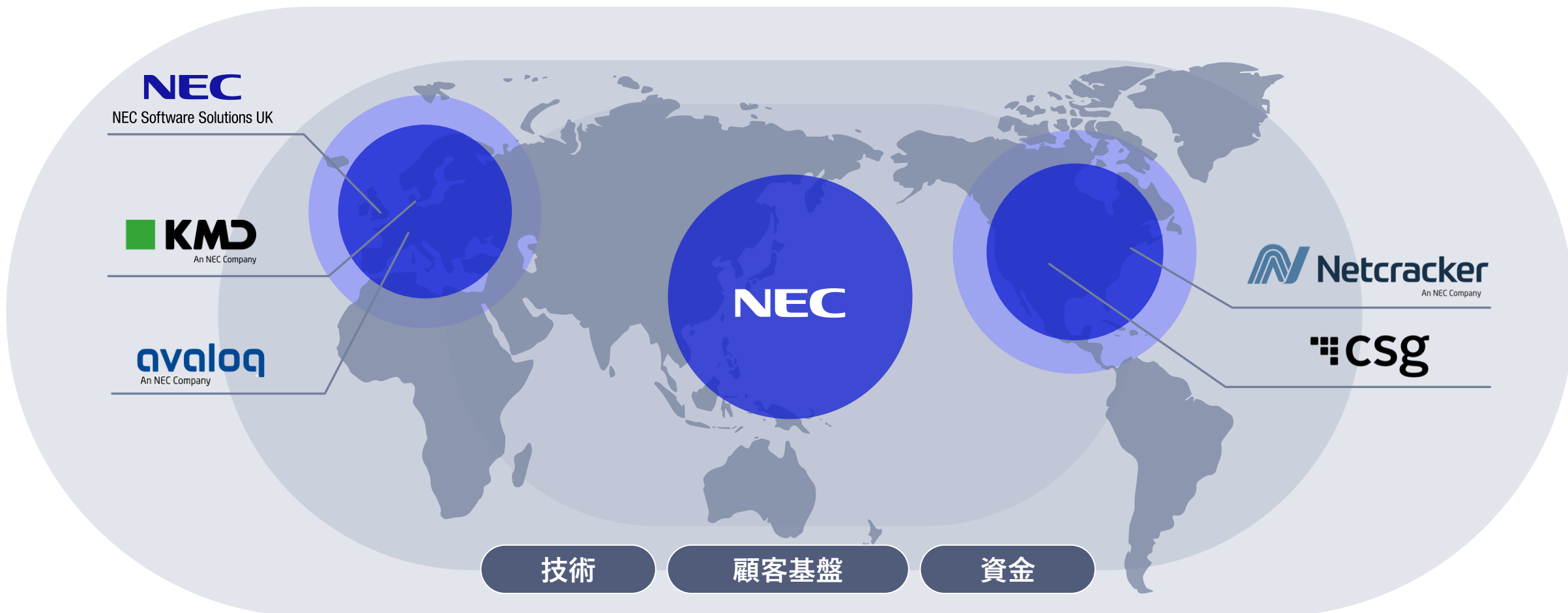
買収によるシナジー

CSGとNetcrackerの持つ顧客基盤やテクノロジー/DXケーパビリティを活用し、製品競争力の強化や幅広い業種への事業拡大を図る



NECグループの技術・顧客基盤・資金をフル活用

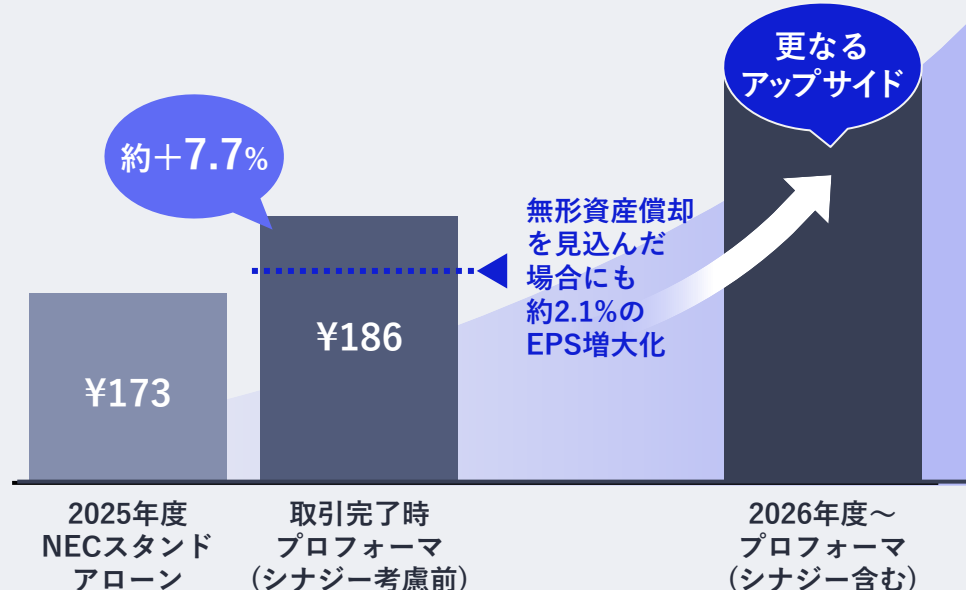
欧州中心に展開するDGDF事業と並び、
北米からグローバルにおけるソフトウェア・サービス事業を牽引



本件買収は償却費を考慮してもEPS増大化に即時貢献し、 NECのWACCを超えるキャッシュROICの実現が可能

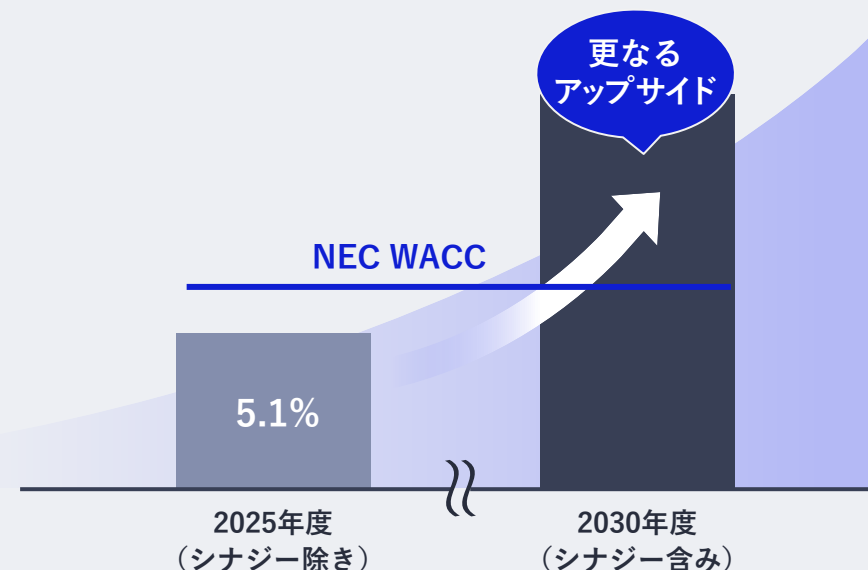
Non-GAAP 1株当たり利益（EPS）※1

- 本件取引完了後、即時のEPS増大化を見込む
- シナジーの実現によるアップサイドを追求



本買収に対するキャッシュROIC※2

- シナジーの実現も加味すると、買収後5年以内に、NECのWACCの実現は十分可能な見込み



※1 プロフォーマNon-GAAP 1株当たり利益の算出において、CSG Systems Internationalの当期純利益は、同社公表の2025 Guidanceの中央値を採用。プロフォーマ調整として、両社の当期純利益合計から、CSGの2025 Guidanceに合理的に見込まれるNet Interest Expensesを控除の上、本件買収に係る有利子負債（CSGの既存有利子負債の借換えを含む）に係る費用（30.62%の税引後）を減算。USD/JPY=153の前提。取得価格とCSG純資産の差額の無形資産及びのれんへのアロケーションを1：1と仮定し、無形資産の償却を15年と仮定。

※2 キャッシュROICの定義は以下の通り。NOPATの算定は、NECによる合理的な前提によるCSG Systems Internationalスタンドアローン、及びシナジー見通しに基づく。

- 投下資本(分母)：買収額+NECからの追加投融資額-NECへの配当・貸付返済額
- NOPAT(分子)：(GAAP営業利益+買収関連の無形資産償却額+株式報酬額-一時(損)益)×(1-実効税率)

注意事項

<将来予想に関する注意>

本資料に記載されているNECグループに関する業績、財政状態その他経営全般に関する予想、見通し、目標、計画等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいております。これらの判断および前提は、その性質上、主観的かつ不確実です。また、かかる将来に関する記述はそのとおりに実現するという保証はなく、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。その要因のうち、主なものは以下のとおりですが、これらに限られるものではありません。

- ・ 製品・サービスの品質、安全性等に関する問題の発生
- ・ サイバーセキュリティ・リスク
- ・ 優秀な人材を確保できないリスク
- ・ 従業員を含めたバリューチェーン上の人権課題への不適切な対応
- ・ 贈収賄行為や不正会計、個人情報保護法等の法令違反など、重要な不祥事の発生
- ・ 気候変動、自然災害、環境問題等の影響
- ・ 為替・金利変動等の経済情勢の変化
- ・ 企業買収・事業提携が奏功しないリスク
- ・ 事業展開している国・地域における政治・社会情勢
- ・ 技術革新による影響や知的財産権に関するリスク
- ・ 自然災害やパンデミックの発生等のハザード・リスク
- ・ 競争法、輸出管理法令等の違反等に関するコンプライアンス問題の発生

将来予想に関する記述は、あくまでも本資料の日付における予想です。新たなリスクや不確定要因は随時生じ得るものであり、その発生や影響を予測することは不可能であります。また、新たな情報、将来の事象その他にかかわらず、当社がこれら将来予想に関する記述を見直すとは限りません。

NEC

\Orchestrating a brighter world